

読み聞かせと読書

～ 就学前の調査から ～

少し前のことですが、『読書量 読み聞かせが左右』、こんな記事が読売新聞(2023年11月9日付)に出ていました。「小学校入学前に保護者さんに読み聞かせをしてもらっていた子は、入学後の読書時間が長い。」というような内容です。また、「小中学校では、成績上位層の子ほど読書時間が長い。」とも紹介されています。(東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所の共同調査から)そして、「幼少期に読書時間が長かった子は、その後も継続して本をたくさん読む傾向があり、できるだけ早い時期に読書習慣を身に着けることが重要。」と締めくくっています。

ちょうど11月に教育委員の園訪問があり、私はこの話を順次園長先生にしました。それを受けてこども課の先生が12月に公立9園全部の「読み聞かせ」調査をしてくれました。5歳児からの聞き取り(315人)と、その保護者さんへのアンケートです。とりわけ担任の先生にはずいぶんお手間を取らせました。ありがとうございます。

それでは、結果を紹介します。

(1) 「読み聞かせ」をしてもらった園児	80. 6% (254人/315人)
(2) 「読み聞かせ」をしてもらっていない園児	19. 4% (61人/315人)
このうち、自分で読んだ園児	9. 2% (29人/315人)
同じく自分でも読んでいない園児	10. 2% (32人/315人)

各園では、「読み聞かせ」の重要性を認識しておられ、毎週金曜日の保護者さんの「お迎え」時に絵本の貸し出しをしています。「絵本、持って帰ってくださいね。」という先生の声に促(うなが)されて、数冊の本を持って帰られるのが恒例となっています。そして、週明けに園児に(お父さんやお母さんに)本を読んでもらったかを先生が聞くことがあります。ほとんどの返事は、「(読んでもらって)うれしかった。」「本、むっちゃおもしろかった。」「何回も読んでくれた。」です。また、「おひざに抱っこしてもらえたから、うれしい。」というスキンシップや親子の温(ぬく)もりも伺えます。

でも、こんな答えもあります。「読んでくれへんかった。」「お母さん忙しいから、自分で読みって言われた。」などです。さらに、こんなのも。「お父さん、早よ読むから、おもしろなかった。」そこでこの子にもう一度聞いてみると、お父さんに読んでもらったものの、絵本の文字だけをパツパと早く読んで、「ハイ、終わり。」って言われたそうです。

一方、保護者さんのアンケートにも「忙しいときには、兄や姉に読んでもらっている。」とか、「時間がない時に『読んで』と言われ、急いで適当に読んでしまう。」などとありました。また、「文章が長い絵本を借りてくると、面倒だなと思う。」という声も。さらに、「園で子どもが『読んでもらってない。』という困るから、仕方なしに読んでいる。」というもの。こういうマイナス面だけではもちろんありません。うれしい回答もたくさんありました。「子どもと一緒に読む時間が楽しい。」「絵本が(親子の)コミュニケーションの大切なツールになっている。」「(子どもが)文字に興味を持ち、自分で読みたがる。」「私が(小さい時に)読み聞かせしてもらった経験がないので、わが子には読み聞かせをあげたいと思ってしている。」「(子どもが)気に入ったフレーズを繰り返して楽しんでる。」「普段の生活だけでは得られないことを学べたり、知らない世界を知ることができるので、これからもたくさんの絵本にふれてほしい。」

調査結果に戻ります。約8割の子が「読み聞かせ」をしてもらっています。私は親子のこうしたかかわりの中で、本

に対する興味関心だけでなく、「自尊感情」も確実に育まれていると考えます。一方、2割の子はどうでしょうか。その半分の子は「自分で」読んでいます。本に対する、文字に対する興味関心などは高いと思います。また、その姿を保護者さんが評価されることで、自尊感情も高くなっていくとも考えられます。一番の課題となるのは、残りの1割の子だと思います。本に触れることがなく、また、それをおとした親子のかかわりという機会もない子(もちろん、別のかかわりがあるかもしれませんが)、この子たちが小学校入学後どうなのか、「読書習慣」という一面からだけでも考えてみたいですね。